

利用者による効果・成果

- [人に代わって伝える業務・効率をリアルとバーチャルで補う](#)
有限会社BOND
- [アバター技術の未来](#)
九州産業大学理工学部機械工学科 教授 榊泰輔
- [社内研修業務のデジタル化で講師の負担軽減へ](#)
三島光産株式会社
- [AIスマートアバターで、神社の歴史や文化を多言語で伝える](#)
高見神社
- [地方空港利用者の声](#)
2024年、正月の事故のときに地方空港にいた1ユーザーから頂いたメールより
- [障害者就労支援の課題解決の一助となるもの](#)
北九州市 保健福祉局 障害福祉部 障害福祉企画課
- [Bond社Smart Avatar® の医療現場への展開](#)
九州産業大学理工学部機械工学科 教授 榊泰輔
- [展施設紹介 とセキュリティ教育への活用](#)
九州産業大学
- [高等学校での活用](#)
福岡県立筑前高等学校
- [教員免許制度に替わる教員研修の動画作成](#)
福岡県教育センター
- [講義への活用](#)
国立大学法人 九州工業大学

- [シンポジウムでの活用](#)
特定非営利活動法人 医療ガバナンス研究所
- [医療現場での活用](#)
日本歯周病学会認定医 いがらし歯科医院グループ
- [銀行「受付発券機」案内の伝え方改革での活用](#)
株式会社 りそな銀行
- [コロナ禍の中で出来ること](#)
社会医療法人 ペガサス
- [オンライン研修での活用](#)
TOTO株式会社
- [展示会での活用](#)
シャボン玉販売株式会社

人に代わって伝える業務・効率をリアルとバーチャルで補う 動画生成 AI スマートアバター®シリーズ PC 版

令和 5 年度 福岡県 [新商品の生産による新事業分野開拓者認定にあたり](#)

有限会社 BOND

令和 6 年 12 月

【認定製品概要】

人の感情に拘る独自の AI を開発し、文字や画像から簡単迅速に動画を生成・発信・双方向対話を実現する各種「動画生成 AI スマートアバター®シリーズ」を開発。47 か国語機械翻訳・31 か国文字読み上げ機能とも連携し

ており、その中でも、番組作成ツール「フローティングライセンス版」は、文字や画像入力でも、PowerPoint データからでも、簡単迅速に動画を生成する。

愛らしいアバターが、事業説明・研修・業務マニュアル・採用活動・外国人対応など、人に代わって伝える業務・効率・働き方改革を補い、豊かなコミュニケーションで Well - being な経営やサービスに貢献し、既に福岡県教育センター・教育庁でも採用されている。

新商品の生産による事業分野開拓認定者

有限会社 BOND



① 県庁の中で直接の業務で県民と直接接する機会がある所属で

【場面・活用案】

・ 県民情報広報課

県の広報動画の作成、配信

(ちょっとしたお知らせなど)

知事室とタイアップした知事アバターによる県民への説明動画、作成配信

年末年始、祝日などの窓口案内動画

危機管理課とタイアップした災害時などの情報発信

・ 税務課

税制改正の PR 動画作成・配信

固定資産在など県税の納期などの PR 動画作成・配信

県税事務所職員の研修資料作成 など

②イベントが多く、その現場での活用が考えられる所属で

【場面・活用案】

・生活安全課

飲酒運転撲滅、横断歩道マナーアップなど各種運動の説明、宣伝動画作成、配信

消費者に対する各種啓蒙動画の作成、配信

各種パネルや展覧会の告知動画の作成、配信

県庁職員、市町村職員の研修資料としての動画の作成、配信

コミュニケーションギャップのある県民への各種施策、制度を説明する動画作成、配信

定期ニュース動画の作成、WEB での配信

・文化振興課

文化行事、イベントなどの紹介動画、説明動画の作成発信

県立施設での施設案内動画、配信

県の文化振興のための動画作成のコンペ開催

県の文化財などの紹介動画、配信

県の観光名所などの紹介動画、配信

県立施設での職員の研修動画

県の発掘現場など現地説明会の説明動画、資料

国際的は発信のための多言語での PR 動画作成、配信

・農林水産部

(食の安全・地産地消課、輸出促進課、食販売促進課、園芸振興課等)

県産品の紹介動画、外国向け多言語可能

農林水産事務所職員の研修動画の作成、配信

病虫害などの注意喚起動画作成、配信
制度改正などの解説動画の作成、配信 など

③その他

県庁 WEB のコンテンツの説明の文字をそのままコピーするだけで動画コンテンツとすることができる。そうすることで、多言語翻訳は自動でなされ、視覚障害者などが音声で情報を取得することができる。要は、このツールは、動画を筆記用具として使うというものであり、用途は、何でも使える。動画が効果的なのは、文字によるコミュニケーションが得意でない人にも動画、アニメーションで訴求できるということである。

[Topにもどる](#)

アバター技術の未来

榊 泰輔 (九州産業大学 理工学部機械工学科 教授)

Taisuke SAKAKI, Department of Mechanical Engineering, Faculty of Science and Engineering, Kyushu Sangyo University

窪田 由紀 (九州産業大学 産学共創・研究推進本部 科研費特任研究員)

Yuki KUBOTA, Specially Appointed Researcher (KAKENHI), Industry-Academia Co-Innovation and Research Promotion Headquarters,

Kyushu Sangyo University

古川 ひろ美 (有限会社 BOND 代表取締役)

Hiroimi FURUKAWA, President CDO (Chief Digital Officer), BOND Co. Ltd.

1 はじめに

この本報告では、アバター技術の可能性について述べる。まず応用事例として、開発中の高齢者見守りシステムの仕組みと特徴について説明する。アバター技術を組み合わせることで既存の仕組みの問題点を解決できることを示す。次に高齢者のその他の問題に敷衍し、公共交通機関、具体的には空港を利用する際の問題を考える。さらに介護現場のニーズとアバター技術の本質とをマッチさせ解決することを展望する。

アバターとは、「デジタル空間におけるユーザの代理となるキャラクターやアイコンのことである。インターネット上のコミュニケーションやゲーム、仮想現実 (VR) などで使用され、ユーザ自身の存在を象徴し、他のユーザとの交流を可能にする。アバターは、ユーザの性格や好み、アイデンティティを表現する手段ともなり、自由にカスタマイズできるものが多い。アバターは、ユーザがデジタル空間で行動する際の身体的な表現であり、その見た目や動きはユーザの操作によって変化する。また、アバターはユーザのプライバシーを保護する役割も果たす。実際の個人情報公開することなく、アバターを通じてコミュニケーションを行うことが可能である。」(実用日本語表現辞典を参照) 即ち、デジタル空間を通じてユーザの代理として対話するツールのことである。

最近の話題としては、「モニタに映るアバターを遠隔地にいる人や AI が動かして接客、応対する場面が、くらしの中で広がっている。アバターの操作が簡単になったことに加え、働き手不足が強まったことが背景にある。リアルな接客にはない利点もある。」「保険選びの相談、顧客の半数が選ぶ、リアルな相談員よりも気軽で断りやすいのか相談しやすいとの声も」としている(朝日新聞平成6年7月の記事)。実店舗としてのコンビニやネット上の仮想店舗など、生活の周囲で広がりつつある

といえよう。

2 アバター技術の事例

アバター技術の一つである BOND 社 SmartAvatar ®を応用した高齢者見守りシステムを紹介する。

超高齢社会に対処するため、国・厚労省は地域包括ケアシステムを推進している(図1)。そこでは、医療機関による医療、介護期間による介護サービスの提供のほかに、地域のコミュニティによる生活支援・介護予防を進める。看護師や地域ボランティアを組織し定期的に在宅高齢者を訪問、フレイル予防などの身体機能のほか、引きこもり等うつ傾向の有無を観察し異常があればセンターへ報告する仕組み作りを目指している(図1参照、東京大学高齢社会総合研究機構編、地域包括ケアシステムのすすめ、東京大学出版会)。しかし現実には、深刻な人手不足の中、在宅高齢者への訪問と観察には限界があり、夜間の容態急変や夏季の猛暑における熱中症などを考えても、24時間常時の見守りは事実上難しい。そこで、我々はアバター技術で在宅高齢者の見守りを支援する仕組みを開発中である。

本研究の目的は、①在宅高齢者の状態把握、②共感と行動変容を促進、③異常事態を予測しケアセンターへ報告、により地域包括ケアの構築を推進することである。実現手段として、高齢者の感情・行動を観察する AI スピーカ等センサ群と、感情・認知度・行動の解析エンジン、および共感と行動変容をうながすアバター技術とを備え、①24時間常時観察、②感情・行動の変化検出、③高齢者の特性に沿った伝達機能を備える。同時にバックグラウンドで、④観察・検出および伝達方法の

見直しを実行する。アバター技術は BOND 社の SmartAvatar ®を用い、高齢者の在宅に設置する

ディスプレイにアバターの動画を流す。SmartAvatar[®]は、アバターが喋るテキストを入力すれば、そのテキストで想定される最適な感情を内蔵するAIが推定し、感情に合った表情や身振り手振りを添えて声を出力する。我々は、臨床心理士の知見をもとに、高齢者が認識しやすい会話モデルを構築中である。特にアバターの発話を高齢者の共感を得よう工夫している。

地域包括ケアシステム（厚労省）でフレイルを防ぐ

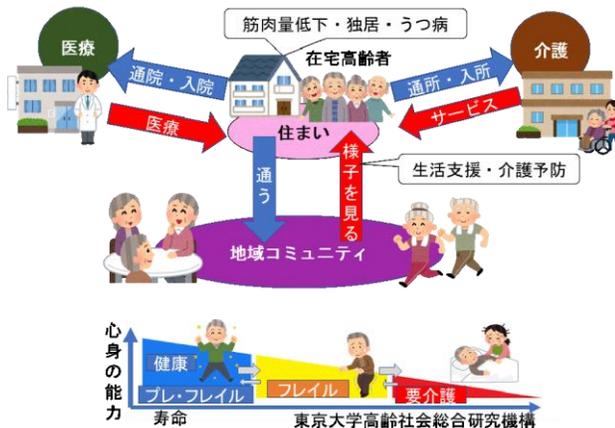


Fig. 1 地域包括ケアシステムの概要

事例の一つとして、「高齢者の熱中症予防」を取り上げた。従来、熱中症予防対策は、自治体からの紙媒体、訪問、電話等による注意・警告であり、ユーザーの状況に関わらず画一的で一方向的である。これではせつかくの注意・警告が理解されず、熱中症を防ぐ効果も薄れる。そこで高齢者の特性と状況に合わせた注意・警告になるよう工夫し、行動変容につなげようと考えた。

具体的には、以下のような機能を開発した。まず①高齢者の住環境の温湿度を計測する。次に②計測値を用いて熱中症リスクを判定し、リスクの程度に応じ発出する動画あるいは介入方法を選定する。続いて③動画・音声でリスク回避の行動変容を促すかあるいは危険な状況で即時対応が必要と判断した場合にエアコンを自動でオンする。一方バックグラウンド処理として④計測値、判定、対応と結果をケアセンターと共有し検証と改善をし、行動変容を促された後の住居の温湿度や行動変容の結果から、促し方や介入方法を見直す。

機能の実装例を示す(図2)。①室内に設置した温湿度・気圧センサによる計測値からマイコンESP-WROOM-02が「暑さ指数」(温度値,湿度値,その他の値から総合的な熱中症リスクを判定す

る指数)を計算する。②暑さ指数によりリスクを判定しそのレベルに対応する動画作成アプリSmartAvatar

APIを起動する。暑さ指数によるリスクレベルをふまえて行動変容を促す内容として、複数の動画が予め作成してある。このとき高齢者の一般的な特性と対象ユーザの個別の特性を合わせてユーザが理解しやすく行動変容に結びつくよう工夫した。例えば、高齢者の認知機能を考慮し話す速度を緩める、一つのフレーズにおいて主題は一つに絞る、フレーズ間は数秒おく、などである。また例えばユーザが素直に他者の言うことを聞かない等の性格を考慮し、二体のアバターが掛け合いで会話するようにした。片方がユーザの感情を代弁する役割(行動変容を促すアドバイスに一時否定的な反応)を持たせており、二体の掛け合いで対話することで共感を得て行動変容につながることをねらった。その他、ユーザの好む音楽や身近な話題で注意を惹き親しみも得る。熱中症リスクに関する質問と対処法を繰り返しリスクの高さを徐々に理解しやすくするなどの工夫

を施した。なお、危険なレベルの暑さ指数ではESP-WROOM-02の赤外線LEDでエアコンを動作させる。③時間をおいて再計測した温湿度情報から高齢者の行動を推測する。ESP-WROOM-02のWi-Fiモジュールでケアセンターと情報共有し、高齢者の行動変容をより確実に促すためのシナリオ見直しに役立てる。

見守りシステム ロボット工学(アバター)を応用

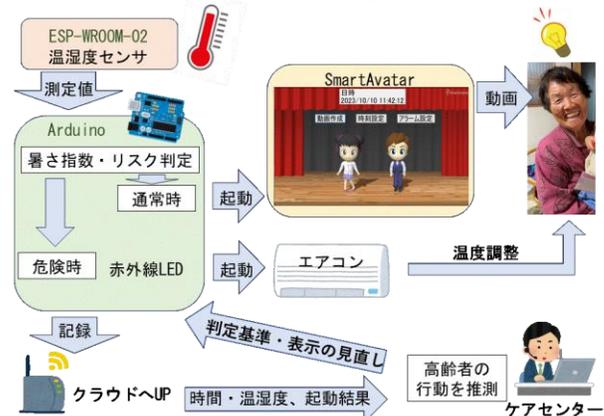


Fig.2 高齢者見守りシステム(熱中症予防)の実装例

臨床心理士、理学療法士およびユーザに動画へのコメントを得て改善を繰り返した。最終版を高齢者1名に対し試行した。リスクレベルと取るべき

行動について、試行した高齢者が理解したことを確認できた。理学療法士等より得たコメントの一部を以下に示す。・二体のアバターの掛け合いでユーザの受け止め方を代弁するので内容が伝わりやすい。

- ・視覚的な呼びかけで注意をひきやすい。

- ・身近にある飲料で水分補給を勧めるので、具体的な行動に結びつきやすい。

熱中症予防を目標に、ユーザの固有情報の反映とアバターの掛け合いにより、分かりやすさや共感への効果がヒアリングで示唆された。今後はユーザの行動を予測するため、AIスピーカとカメラで高齢者の表情や声の変化を読みとる技術も導入したい。高齢者見守りについてのアバター技術の効用をまとめる。人にできないことを支援できることで介護業務を補完することが新しい価値になる。

- ・24時間疲れなしでサービスの品質を保てる。特に認知症の高齢者にも感情的に摩擦を生じることなく対応できる。

- ・データの分析をもとにその場で素早く正確な対応ができる。また遠隔地であっても状況をモニタしたり、クラウドにデータを蓄積したりできる。

- ・人に寄り添うようプログラムできる。すなわち相手の状況に関わらず常に細やかに対応することで、心理的ストレスを下げることができる。さらに会話を誘導し地域コミュニティとの中継ぎができる。

3 アバター技術の展開

次に高齢者に起こりそうな他の問題に敷衍してアバター技術の効用を考える。例えば公共交通機関、具体的には空港を利用する際の課題を考える。

例えば、年老いた母親が飛行機で移動する場合を考える。空港での様々な状況変化あるいはトラブルに一人でちゃんと対処できるか、広い場所で戸惑ってウロウロしないかと心配になるだろう。フライト遅延などのトラブルはしばしばある。何等かの事故災害に巻き込まれることもあるかもしれない。大都市の空港で細やかな対応は期待薄かもしれない。その理由を以下のように推察する。

- ・空港における情報提供の主な想定対象は、若年者でありデジタルネイティブである。目的を理解し能動的に情報探索できる、また周囲変化に敏感で直ぐに行動できることを想定する。

- ・情報提供のあり方は、1対多かつ一方通行で十分

である。具体的には、情報はHPに出せば問題ない。トラブル発生時、個々の人に合わせた対面対応は想定していない。

- ・従ってアバター技術は二重の意味で必要ない。既に対応は十分であり、またアバターはアニメや動画CMと同じでHPのコンテンツを単に動画にして情報発信するだけだからである。よって手間をかけるだけでコストが引き合わない。(既に述べたようにこれは誤解である)しかし、このような考え方は様々な問題を起すだろう。

- ・緊急時あるいはフライトキャンセルなどのトラブル発生時に、親切に対応できない。振替輸送手段、ホテルの手配、食事等について素早くかつ分かりやすく案内しさらに個別の要望に応じて対応できない。

- ・弱者にとってわかりにくい利用しにくい。デジタルに疎い人たち、即ち高齢者、障害者などの社会的弱者に十分な内容が伝わらない。また外国人、LGBTQの人たちに対し意図が正確に伝わらない。・認知能力が低下している高齢者などが個人的な事情で困っていても、それは自己責任だと突き放しているように見えてしまう。トラブルに遭遇し困っている件をくみ取り、トイレの場所や搭乗口への誘導、搭乗時間の変更は自分で必要な情報を探すべきと感じさせ戸惑わせる。そこで、すべての利用者に快適に使ってもらうための戦略を考える。

- ・緊急あるいはまさかの事態、変則的状況を少なくとも想定することを試みる。トラブルがどの程度重大かを考え、事前に打てる「減災対策」を考えてみる。コストをかけずともできることがあれば、先送りせず手を打っておく。時間とコストがかかる案件は継続して検討する。(中尾政之、続々失敗百選、森北出版)

- ・情報提示の対象を弱者第一とする。高齢者等にもわかりやすい情報提供(内容と提示方法)とすることで、対象者全員が理解可能になる。例えば、当事者が探さなくてよい在り方を考える。情報はその場で完結しさらに検索する必要のない行き届いた内容とする。

- ・対象者の特性やおかれた状況に応じて案内ができるよう、情報提供のあり方を根本から見直す。即ち、どんな人に対しどんな事をどのように示すかを考える。これは多様な受け手に対して、情報の内容と提供方法を多様化することである。さらに双方向にする、必要な時に必要なものを提供する。以上より、多対多(多様な特性・事情

の人に対し多様なアナウンスと誘導)、双方向(対話により安心感をもってもらうとともに処理すべき問題を抽出する)、On demand (ほしいタイミングでほしい情報が得られる)がキーワードとなる。同様な課題は他の分野でも考えられる。

・災害時の視覚聴覚障害者への対応. 石川県聴覚障害者協会業務執行理事藤平淳一氏(朝日新聞 2024 年 7 月)によれば, 2024 年 1 月の能登半島の震災, 集中豪雨による浸水等被害など, 自然災害が降りかかる現実味が増している中, 深刻化している. 高齢者などの社会的弱者だけでなく, 視覚聴覚障害者などへの目配りが大事である. 例えば, ろう者が能登地震で情報弱者におかれたことが指摘されている. 安否確認に時間がかかった, ろう者の存在が気づかれず避難所でコミュニケーションがとりにくかった, 配給などのアナウンスが音声のみで目から得る情報が少なかったなどと指摘している. 対策として, 音声をその場で認識し, 文字にするとともにアバターを介して手話で伝えることが考えられる. ろう者の手話を画像認識する機能を付加すれば双方向の会話が可能になるだろう. 最近では, 2024 年 8 月の宮崎沖震源地震を契機とした南海トラフ巨大地震の発生確率倍増の事案もありニーズは高い.

・いわゆるサコ住の介護スタッフを補完する課題. 現場スタッフから聞いたことがあるが, 暴言など認知症に対応する際の心理ストレスで退職することが多いようだ. 心理ストレスを軽減する仕組みが必要だ. また高齢者の認知症を予防または認知レベルを維持するため, 日常の会話を支援するアバターが考えられる.

・在宅高齢者への訪問スタッフを補完する課題. 夜中にもおしゃべりするなど通常ではできないサービスができる. 認知症で繰り返したり飛躍したりする会話にも冷静に対応できる. 会話の仕方を工夫して観察すれば, 認知機能のチェックもできる. 評価と予測のモデルがあれば早めの対応が可能である. ・被災地の避難所の高齢者への継続的な支援, 特に孤独・孤立の解消. 地域コミュニティが崩壊し, 孤立や場合により孤独死を生むリスクが高い. 災害のせいで遠くに住むことになった知人, 親戚などと常時気軽に通信できるとよい. メッセージを交換するアバターなどが考えられる.

・災害時における自治体, 消防組織への支援. 個人の特性, 住宅位置など個別の条件を勘案し, 住宅ごとに警報をだし, 自分事として認識しやすくする.

早めの自主的避難を誘導できる.

4 アバター技術の進化

進化の方向として 2 点をあげる.

4.1 パーソナライズ化

個別対応を即時するために必要である. 例えば熱中症の事例では, 住居のある場所(住所), 住居での部屋の配置, 部屋の中の位置(窓際か否か, 風通しの良い悪い等)により温湿度は異なる. 災害時の避難誘導においても, 同じ町内であっても住居の位置(崖, 河川との距離, 高低, 発生歴の有無等)により対応は異なる.

個人の状況や条件から必要な対応を絞り込む. 例えば, ユーザーがテキスト入力または音声入力した内容から, 背景を抽出し確率的推定により最適な方法をだす. 例えば, 顧客の特性とおかれた状況に応じて細やかな対応が求められる場合, 顧客の年代による一般的な特性, 例えば高齢者一般について認知機能の衰えや認識の遅れなどを勘案する. 同時に顧客の個人的な特性, 例えば熱中症の事例で述べたように, アドバイスを素直に実行しないなどの特性や好みの音楽また仕事などの日常生活も考慮する. これに加え顧客のおかれた状況により必要な対策を抽出する. 個別の状況に応じ適切なアドバイスを分かりやすく伝えることで, 受ける側が自分事として受け止めやすくなる. 災害時にも早めの避難や行動変容を期待できる.

4.2 気付きを与える

「気付き」とは「情報を結び付けて行動につなげる」「意識の能動的で機能的な側面であり, 急激に変動する環境において, 状況に応じて柔軟かつ効果的にふるまう手段を提供するもの」である(上田彩子, 気づきの心理学, 計測と制御, Vol.63, No.5, pp.293-298, 2024). 上田氏は「気づきを柔らかく制御する」ことを主張している. 気づきの与え方, 例えばあるリスクに対する注意の与え方には, 複数の方法がある. 大きくは, 即効性があるが一過性のものになりやすい「外発的」情報を与える方法と, 理解に時間がかかるが持続性がありかつ妥当性が低くても捕捉される「内発的」な方法に分かれる.

外発的な気づきは, あるべき行動を直接提示することで容易に得られる. 例えば画面が入れ替わった際に手を挙げて知らせる場合, 手を上げるサインを映像として出したり, 直接手を把持して上

げたりすることが相当する。これに対し、画面切替を音や光で知らせる間接的な教示が、内発的気づきを促す。教示をきっかけに推論し、あるべき行動を考え実行することになる。内発的な情報から気づきを与えるには試行錯誤が必要である。インセンティブを上手く与えると、より能動的に課題に取り組む傾向がある。具体例として、自動車の運転の精度向上やリハビリ訓練をあげている。

内発的な気づきによる方が、主体的能動的な行動が生まれやすい。ただし、理解し推測するスキルが必要で時間もかかることから、全ての状況に対応するとは言えない点に注意したい。とはいえうまく情報提示すれば、気づきが喜びを与えより能動的に行動変容を促せる。わかりやすさ、持続性、能動性を勘案し、対象者の特性に応じて外発的～内発的な気づきの与え方を調整する。同じ課題であっても環境と対象者の各特性に応じて変える。

例えば熱中症への対応で、ユーザの認知レベルに応じて促し方や介入方法を考える。直接エアコンSWを入れ飲み物を飲むよう指示する場合もあるし、リスクレベルのみを示し対応を暗示するように飲み物はあるかと尋ねたりする場合もあるだろう。リハビリ訓練も同様に考えることができる。一律な指示や情報提示ではなく、患者の回復レベルに応じて適した情報を提示することで効率的な訓練となる(里宇明元ほか, 神経科学の最前線とリハビリテーション 脳の可塑性と運動, 医歯薬出版)。

BOND社のめざす「ぴよん吉」(吉沢やすみ, 漫画「ど根性ガエル」集英社, 1970～1979)のイメージは、ユーザに伴奏するように寄り添い、適切なタイミングと状況に、ある時は易しく諭し、ある時は叱咤激励してくれる、互いに交流しながら成長するパートナーとしてのアバターの将来イメージを示している。

[Topにもどる](#)

三島光産株式会社の、スマートアバター®による DX 社内研修業務のデジタル化で講師の負担軽減へ

急速なデジタル化が進む現在、企業が競争力を強化していくためには、DX 推進が必要だと言われています。三島光産株式会社（北九州市八幡東区枝光2-1-15）でもDXを進めるためまずは社内のデジタル化への取り組みをおこなっています。



その取り組みの1つにデジタルツールを活用した社内研修業務のデジタル化です。従来、社内研修では説明資料をプロジェクターに投影し、講師が投影された内容を読み上げるといったスタイルでしたが、デジタル化ツールを利用し、音声付き研修動画を作成。それによってオンラインでの受講と、繰り返し学習も可能となりました。また、対面研修が必要な場合にも説明の一部を動画研修で実施し、講師は重要な部分を補足するといった講師の負担軽減にもつながります。

研修の動画化に利用したツールは、スマートアバター®です。これは BOND 社が開発・販売し、非接触非対面を実現するコミュニケーションツールで、独自の AI(人工知能)を開発し、事前学習不要で、文字、画像、パワーポイント等のデータから簡単迅速に動画コンテンツを作成することが可能です。

最後に、三島光産は日本のモノづくりを多方面で支えている「縁の下の力持ち」として、100年以上にわたり事業を展開してきた企業です。社会的立場として、世界の工場で役立つことを目指しており、工場に必要な人・設備・治具・部品・システムなどあらゆる物を提供しています。そのためには、お客様のニーズに合ったものを提供し、期待に応え、さらにお客様の気づかない部分もご提案する工夫と高い技術力が求められます。これからもいろいろな困難にも決して諦めず、あらゆる課題に対して、TEAM 三島一体となって取り組んでいきます。

【本件のお問い合わせ】

三島光産株式会社 情報システムグループ 横原 良平
〒805-0002 福岡県北九州市八幡東区枝光 2-1-15 電話：093-671-8510

【「スマートアバター®」のお問い合わせ】

有限会社 BOND 代表取締役 古川ひろ美
〒803-0801 北九州市小倉北区西港町 122-10 電話：093-561-5521

[Topにもどる](#)

高見神社のデジタル革新で地域貢献へ AI スマートアバター® で、神社の歴史や文化を多言語で伝える

高見神社（北九州市八幡東区高見 1-1-1）は、北九州発のデジタル技術を活用して、神職や巫女の装束を着たキャラクターが多言語によって神社の歴史や行事などを紹介する番組を facebook や instagram など SNS で発信する取り組みを始めました。

発信しているのは、高見神社の神様や歴史、「初宮詣」「夏越大祓大祭」など行事、神社のお守りについてで、神職と巫女の装束の 2 人のキャラクターが日本語と英語で説明しています。今後は、地元・北九州の歴史・文化や観光地、みやげ物などの紹介などにも広げていくことも検討しています。



神社によるこうした発信は珍しく、情報を国籍や世代を問わずにデジタル配信することは、地域の活性化につながり、インバウンドの増加にも対応できると期待しています。

技術面では、世界 31 カ国語に対応したキャラクターが、テキスト情報を入力ただけで表情や仕草なども交えて全自動で発信する北九州発の技術「スマートアバター®」を活用しています。この技術は、北九州空港内で航空機の遅延情報などを配信する「北九州空港案内チャンネル」などで採用されています。「スマートアバター®」が広がれば、神社や空港、観光地などを行き来できるメタバースに発展させることも可能となります。

高見神社は、洞海湾の産土神（うぶすなのかみ）とされ、製鉄所の操業開始以降「ものづくりの精神」を伝える日本近代化産業の守護神として親しまれてきました。これからもさまざまな面から地域に貢献してまいりたいと考えています。

【本件のお問い合わせ】

高見神社 禰宜 波多野光隆

〒805-0016 北九州市八幡東区高見 1-1-1 電話：093-651-5108

【「スマートアバター®」のお問い合わせ】

有限会社 BOND 代表取締役 古川ひろ美

〒803-0801 北九州市小倉北区西港町 122-10 電話：093-561-5521

[Topにもどる](#)

2024年7月3日

地方空港利用者の声

2024年、正月の事故のときに地方空港にいた

1 ユーザーから頂いたメールより

空港のコミュニケーションを補うべきは、平時でも多言語に対応していること。タイ語・ベトナム語で対応できますか？アラビア人は来ないのでしょうか？

文字や画像から心理描写する動画生成 AI スマートアバター®なら、多言語動画をいくらかでも解り易く伝える工夫の余地があり、さらに AI スマートアバター®による遠隔操作案内を使えば、質問にリアルで答えることも可能なはずです。



～．～．～

2024年、お正月、羽田でANA機と自衛隊機が接触炎上する事故があった

あのようなことは二度と会ってはならないが、あの時、各地の空港では、正月からの帰省客でごった返していた。羽田便は全便キャンセルするのだろうか、他空港への振替があるのだろうか、運輸省の指示、航空会社のスタンス、鉄道会社が夜間運行してくれるのか（特に新幹線）、地下鉄は、空港リムジンバスは？天気は、市内のホテルの空き状況は、翌日以降の便はどうなるのか、報道ではそうした細かなことは教えてくれない、同じ情報を繰り返すばかり。

空港職員しかり、毛布や食料を出すのか、赤ちゃん、障害者、老人をどう保護するのか、そのとき、放送は、混乱の中では聞き取りにくい出発便もある。

そのとき、待合、ロビー、ラウンジ、入口にサイネージがあり、日英中韓で必要情報を流すニーズはないか、職員携帯に指示をだすことはできないか、司令塔とその周りのスタッフ（航空会社情報係、管制官・運輸局係、鉄道地下鉄係、病院係、警備係の統括者など）に情報を集中させ、わかっていること、わかっていないことを適時に的確に伝える空港があったであろうか。

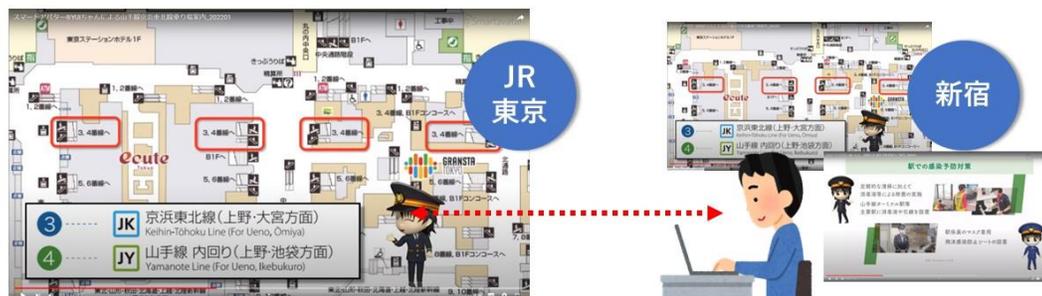
大体の空港職員、放送はわからない事ばかり。そのとき何か起こるのか、パニックである、早いものガチである。

福岡市内のホテルはすぐ満杯になり、翌日便は満席になり、かつ九州中の空港の羽田便は福岡、伊丹、セントレアに集中する。ぼんやりしている、弱者をかかえた人が空港に泊らざるを得なくなった。

危機時に情報を複数サイネージ、端末に同時配信できる、情報収集随時、動画への流し込み1分、作成1分、即動画配信、かような「BOND システム」である。

福岡のような枢要空港でこそ、BOND 製品は威力を発揮する。世界の模範になる板付を見たいのは博多っ子の気持ちではなからうか。そうなれば、そのシステム自体が、千歳、羽田、セントレア、伊丹、仁川、関西国際、成田、北京、ヒースロー、スキポール、シャルルドゴール空港、世界の空港に売れる。

案内員の負荷軽減 ↗ 人手不足の解消 ↗ 情報周知の効率化 ↗



[Topにもどる](#)

2024年2月6日

動画生成 AI スマートアバター®シリーズは、

障害者就労支援の課題解決の一助となるもの

～北九州市の状況と障害福祉企画課の所感～

北九州市 保健福祉局 障害福祉部 障害福祉企画課
障害者就労支援係長 坂本 果林

【北九州市の状況】

- ・障害者の数は、ほぼ横ばいで推移しており、市の人口の約8%を占めています。
(「12人に1人」は何かしらの障害を抱えています。令和4年度76,769人。)
- ・身体障害者の数は減少傾向にありますが、知的、精神障害者の数は、増加傾向にあります。
- ・令和6年4月以降の段階的な法定雇用率引き上げが行われます。
(現在2.3%→令和6年4月～2.5%→令和8年7月～2.7%)
令和5年の障害者の実雇用率、国が2.33%、福岡県は2.38%
令和5年の障害者法定雇用率達成企業の割合は、国が50.1%、福岡県は52.5%。
- ・障害者就労支援施設等における平均賃金は最低賃金の値上げに伴い増加傾向にあります。
平均工賃はほぼ横ばいで推移しています。(令和3年度平均賃金：全国81,645円、福岡県79,634円、北九州市83,882円)(令和3年度平均工賃：全国16,507円、福岡県14,691円、北九州市16,121円)

【所感】

・未雇用企業からは、DX推進により、単純作業の多い紙ベースの事務作業が減少するなかで、「障害のある方にどんな仕事を切り出したらよいか分からない。」という声があります。

→企業が、本ツールを導入した事務改善を図ることで、障害のある方が携わることのできる作業の拡大が期待できます。

・また、障害者就労支援等を行っている障害福祉サービス事業所の大半は、簡易な手作業などを行っているため、工賃が低い状況です。工賃向上のためには、作業内容を時代のニーズに合わせて見直していくことも必要だと思われます。

→本ツールを用いた訓練を行うことで、障害のある方のスキルアップを図ることが期待できます。

・障害のある人の特性(特に精神障害者や発達障害のなかには、緊張を感じやすい人がいる。)に合わせた作業を提供することにより、活躍の場が広がり、工賃向上、雇用拡大が期待できます。

[Topにもどる](#)

Bond社Smart Avatar® の医療現場への展開
九州産業大学理工学部機械工学科 教授 榊泰輔

○背景・経緯

当研究室ではSDGs（国連の持続可能な開発目標）の目標3「すべての人に健康と福祉を」に貢献すべく研究を進めている。具体的には、厚労省が進めている地域包括ケアシステムをロボット工学で支援する技術を研究する。例えば、転倒予測、高齢者見守り、介護者アシストスーツ、脳卒中用歩行訓練ロボット、全身性麻痺者用移動支援ロボットについて進めている。将来は高齢化が進むアジア市場を見据え、国内外の企業へ技術移転をめざしている。

一昨年度よりSmart Avatar®を用い高齢者見守りを支援するシステムを開発している。事例として食後の歯磨きや熱中症予防をターゲットに、高齢者の行動変容を促すシステムを試作した。開発の過程で臨床心理の専門家に高齢者の特性についてアドバイスを得ながら進めた。こうした経験から今後の展開について色々考えるところがあった。

○現場の課題とSmart Avatar®の本質

医療だけではないだろうが、現場には、言いにくい、読みにくい、わかりにくい書類やマニュアルがあるものだ。また何度も同じような内容を繰り返し説明する業務も多い。例えば手術前の説明や入院前の説明などだ。もちろん時間をかけてきちんと説明し相手に納得してもらうことが重要である。説明を聞く方は初めてかもしれないし、一度聞いただけでは理解しにくいこともあるだろう。一方、説明する方にとってはルーチン的な内容であり、手間をかける重要性は理解していても、本音は誰かに代わってほしいのではないか。

ここにSmart Avatar®を介して伝えることのニーズがある。固い文章でも身振り手振りで興味を引きながら、何度でも繰り返し伝えることができる。例えば高齢者にはゆっくりと歯切れよく音声の高さも低めにするよう調整できる。人だと疲れる業務を代替し、倦まず弛まず伝えるのがSmart Avatar®の本質である。

○Smart Avatar®の進化の方向

見聞きしている人にスムーズに理解してもらい、さらに興味を引いて積極的な行動に結びつけるには以下の検討が必要だろう。

・外部情報の取得

相手や相手の置かれている環境を観測しSmart Avatar®の行動に反映させる。例えば、各種センサと連携し、相手の年齢、性別、表情、声の調子、温度湿度、明るさに関して観測値を取得する。観測値に応じて声の高さ、速度、強さ、身振り手振りの行動パターンを変えることである。相手や環境の変化に応じリアルタイムに調整することで最適な情報提供ができる。

- ・人を惹きつける技術

臨床心理学を応用し相手を引き付ける技術を実装する。似た事例としてはスマホがある。まわりでみられるようにひと時なりとも離すことなく画面を見続ける理由は、心理学を応用した技術が実装されているからだ。ここに学びSmart Avatar®の動作に反映させる。

- ・個人向けトレーナーへ

Smart Avatar®は冒頭にあげたようなネガティブな内容を緩和するだけではない、ポジティブな意義ももつようになる。将来は個人向けに配置され、常にそばに寄り添ってアドバイス等をあたえる存在になると予測する。

例えば業務の基本であるPDCAサイクルにSmart Avatar®を活かすことを考える。Smart Avatar®を用いれば、手間のかかる手順を確実にこなし形骸化しがちな業務を実のあるものに行える。PDCAサイクルによるカイゼンは、単独ですると面倒な余り手順を省くリスクがある。一方、他のメンバーから問われると反発する感情が生まれるかもしれない。このような気乗りしないが重要な業務を前向きにこなすのに活用できる。Smart Avatar®と一対一でやり取りする、あるいはSmart Avatar®を介して他のメンバーと質疑や議論をすることで、自ら反省と成長の機会を持つ事をたすける。

○医療現場への応用

今医療現場の最大の課題は、働き方改革への対応である。特に若手の意識が変わり、昔風のスパルタ式教育が通用しなくなったことに加え、業務時間の制約がかかることになった。一方、若手が学習すべきことは山積みで、このままでは技術や考え方を伝承することは難しくなり、現場の対応力は総じて低下するリスクがある。

この問題は本質的には若手に自ら学ばせるしかない、無理矢理は難しい。そこでSmart Avatar®の出番である。手間がかかる嫌だなと感じさせるようなことでも前向きに捉えるようアドバイスする、若手スタッフの心理を踏まえた開発が期待される。

ただし対象の情報をとる計測技術や心理学の応用など課題があり、一直線に開発はできないだろう。まずは簡単なシステムをつくり持続的に発展させる仕組み、いわゆるプラットフォームをつくる。現場に実装し、データをもとに逐次改善サイクルをまわしていく。この積み重ねが人の心理に配慮した新しい機械の在り方になっていくだろう。■

[Topにもどる](#)

2023年9月22日

スマートアバター使用報告書

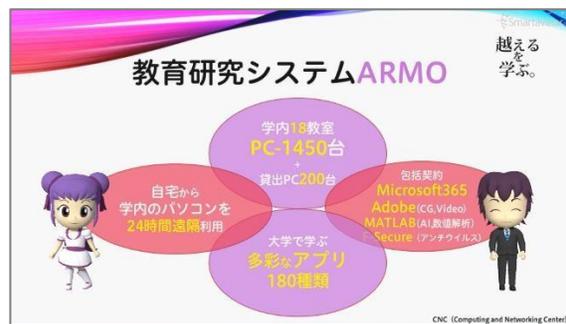
ー施設紹介とセキュリティ教育への活用ー

九州産業大学
総合情報基盤センター
事務部長 石岡 正次

【令和5年度の活用内容】

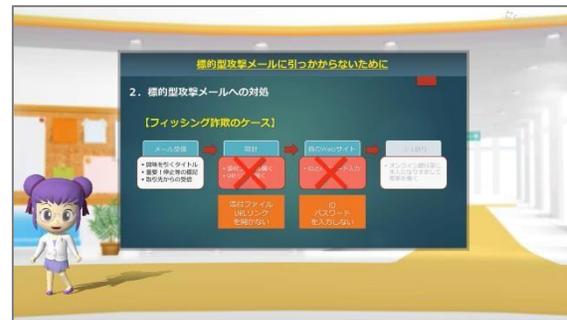
(1)施設紹介動画

総合情報基盤センターの施設案内をスマートアバターが紹介する動画を作成し、オープンキャンパスの施設見学时に上映して、来場者に当センターの概要の理解に役立った。



(2)セキュリティ教材

セキュリティの教材として、攻撃型迷惑メールからフィッシング詐欺やウイルス感染などの手口やその影響について、スマートアバターが解説を行い、留意すべきことを学ぶ動画を作成した。今後、教職員向けLMS (Learning Management System) に登録し、学生、教職員のスキルアップとセキュリティ意識の向上に活用する。



【今後の展開】

施設紹介に留まらず、利用者からの質問が多い ICT 関連機器やアプリのマニュアルを動画化して、いつでもどこでも何度でも視聴して理解が深められるように整備を進めていきたい。

以上

[Topにもどる](#)

2023年5月5日

スマートアバターの使用報告書

高等学校での活用

報告者 福岡県立筑前高等学校

キャリア形成部長 主幹教諭 町居和美

【昨年度の活用状況】

① 授業用動画の作成

② 生徒会活動での活用

自画撮り被害啓発動画の作成（福岡県警の依頼により作成。生徒が自分たちで操作を覚え、動画作成を楽しく行えることがわかった。）

③ その他 職員研修用動画の作成

【今年度の展望】

① 授業用動画の作成

授業のまとめ動画等を作成することにより、個別の学習支援に活用。

② 生徒会活動での活用

新入生オリエンテーション、学校行事での活用（電子黒板やタブレットを使った動画配信）

③ 総合的な探究の時間等での活用

生徒発表での活用（必要数の貸与など、手厚い支援をいただいている。）

④ 職員研修や各種ガイダンス等での活用

[Topにもどる](#)

2023年3月31日

スマートアバターの使用報告書
— 教員免許制度に替わる教員研修の動画作成 —

報告者 福岡県教育センター
産業・情報教育部
主任指導主事 児島永一

【施設等の概要】

福岡県教育センターは、県内の小・中・高等学校や特別支援学校に対する学校教育、学校経営の支援を担う福岡県教育委員会の出先機関であり、次のような教員研修を実施しています。

※日数、講座数は2022年度の実績

基本研修	若年教員研修、中堅教諭等資質向上研修、エキスパート研修、校長・新任校長研修、副校長・教頭研修、新任主任・主事研修 等 のべ67日間
キャリアアップ講座	学習指導、学校経営・学級経営、人権教育、児童生徒理解、産業教育、情報活用能力育成、特別支援教育に関する講座 等 計85講座
ミドルリーダー養成講座	教科教育、学校経営参画、生徒指導・教育相談、産業教育推進、特別支援教育 計のべ29日間
福岡教師塾	福岡県の教育をリードする人材の育成 年間8日間
長期派遣研修	地域の中核となる人材の育成 1年間

2022年7月をもって、教員免許制度がなくなりました。これに替わるものとして、教育センターのこれらの研修の重要性が高まっています。その中でも、学校の授業や会議時間をさけ、教員各自が時間を選んで視聴できる動画配信が必要となってきます。しかし、本来の講座と別の動画を限られた職員で作成することは、大きな負担となっていました。

【使用形態】

そこで、スマートアバターを使用し、これらの動画を作成していきます。現在は、それに先立ち、一部の講座について動画を作成、当教育センター・ウェブページで公開しています。



公開済みの動画

【成果】

2023年度は、のべ100本以上の動画を作成する予定です。その作成作業そのものはもちろん、AIによって、学校の教員が視聴しやすいセリフのタイミングや画面表示の調整が簡単な操作で行うことができます。教員の世代交代が急速に進んでいる今日、スマートアバターを使用した動画が教員の育成に大きく役立つものと期待しています。

[Topにもどる](#)

スマートアバターの使用報告書 —講義への活用—

報告者 国立大学法人
九州工業大学 教授
芹川聖一

【使用形態】

- 講義時間内に講義用動画として使用
3科目(工学倫理、電気回路Ⅰ、電子回路Ⅱ)で使用
- 講義時間外の予習復習および試験勉強のための動画として使用



パワーポイントを用いて講義している科目が3科目(工学倫理、電気回路Ⅰ、電子回路Ⅱ)ある。そのパワーポイントの資料を、スマートアバターを用いて動画に変換し、eラーニングプラットフォーム上にアップロードしている。講義に登録している学生のみであるが、学生はいつでもどこでもこの講義内容を視聴することが可能である。

通常の講義では、パワーポイントを用いて学生の理解度を確認しながら口頭で説明しているが、急な出張やどうしても外せない会議が発生した場合は、この動画を学生が視聴し、その後eラーニング上の演習問題を解かせている。一回の動画視聴で理解できなかった学生は、動画を繰り返し見た演習問題を解いている。

また、学生は授業の時だけでなく、予習、復習、および試験勉強の資料としてこの動画を使用している。

なお、口頭で講義した授業の場合でも、eラーニングプラットフォーム上に動画をアップロードしており、学生はいつでも見ることができるようにしている。

【成果】

- 効果的な予習復習、試験勉強
- 繰り返しによる確実な理解
- 講義時間に比べ短い動画時間
- 自分のペースに合わせた理解進捗

講義の内容を正しく理解するには、事前事後学習が非常に重要でなる。スマートアバターを用いた動画を再生すると、効果的な予習復習及び試験勉強が可能になる。なぜなら、講義全体が動画として保存されているため、自分が分からない点を集中的に繰り返すことができる。授業内容をノートに取って勉強する場合には、ノートに取っている部分以外の箇所で見ることができない点が出たとしても、その箇所を理解するのは容易ではない。これに対し講義全体を動画として取っているため、たとえ授業中に聞き逃した部分があったとしてもそれは動画の中には含まれており、必要な部分に戻って繰り返し視聴することが可能であり、理解が促進される。

通常、パワーポイントを用いて学生に講義する場合、学生の理解を確認しながら授業を進めるため、全体的に授業のペースが遅くなる。これに対し、作成した動画は、冗長の部分がカットされるため、動画の再生時間は講義時間に比べて短い。このため、1回の動画再生だけで理解できる学生は短時間で次の動画へ進むこともできるし、理解できなかった学生は繰り返し動画を再生することによって理解を得ることができる。つまり、個々の学生が自分のペースに合わせて講義の内容を理解することができる。

【効果】

- 学生の理解の促進（短時間、繰り返し、飽きない工夫）
- 教員側は作成および変更が容易
- 授業調整が容易

学生の理解を促進させることができる。一つは動画の再生時間が講義時間に比べて短いため、学生が時間を気にせず動画を見ることができる。また、動画を複数のパートに分けて少しずつ見することもできるし、疑問点は繰り返し見することも可能である。このため一回の口頭による講義よりも理解が深まるというのも利点の一つである。もう一つの効果は飽きにくいことである。スマートアバターの特徴であるアニメのような馴染みやすいキャラクターが音声で解説し、画面全体の動きも単調でなく撮影のカメラワークにも似た作りとなっており、視点が移動したりパワーポイントのスクリーンサイズが変化し、学生が飽きることなく見ることができる。PowerPointのソフトウェアそのものに動画を作る機能もあるが、この機能を利用して動画を作成した場合、画面に動きがなく単調である。

これに比べスマートアバターで作成した動画の方がより魅力的な作りとなっている。

2つ目の効果は、動画の製作者側である教員の立場からすると、非常に制作が楽で、思い立ったらすぐ作れることである。PowerPointのみで動画を作成する場合、マイクを使ってスライドに音声を入れながら、タイミングを見計らいながらページめくりする必要がある。これは、非常に面倒な作業である。例えば、マイクを使って音声でスライドを解説している際に、言葉が詰まったり言い間違えたりすることが多々ある。その度に録音し直す必要があり、結果的に大きな時間を要する。そのためPowerPointのみで動画を作成しようとすると、どうして

もある程度余裕を持った時間を確保する必要があり、簡単にすぐ制作できるというわけではなく精神的余裕が必要となる。それに比べると、スマートアバターは PowerPoint にテキストベースで解説を入力するだけでよく、必要に応じて文言を修正することも簡単であり、短期間で作製することができる。これは教員側からすれば非常に大きなメリットである。

3つ目の効果として、授業の日程調整が従来に比べはるかに楽になるという点である。作成した動画はいつでもどこでも見ることができるため、急な予定変更や出張が入った場合でも授業を休講にせずに進めることができる。これも教員側からすれば大きなメリットである。学生の教育の質を保証するためには、休講した場合には必ず別の日に補講をする必要がある。そのための日程調整は、教員にとっても学生にとっても容易ではない。場合によっては相当数の学生が参加できない場合もある。それに比べると今回の場合はいつでもどこでも受講することができるため、特別に補講の日を設ける必要がなく教員と学生の両方にとってメリットがある。

以上まとめると、スマートアバターは大学の講義において非常に有用なツールであり、学生の理解力を増すことにつながる。教員側からすると教育の質保証にもなる。授業調整が容易になるという点では学生にとっても教員にとってもメリットがあり、有用な教育支援ツールの一つと考えることができる。

[Top にもどる](#)

2020年7月29日

スマートアバターの使用報告書 —シンポジウムでの活用—

報告者 特定非営利活動法人

医療ガバナンス研究所

庶務係 瀧田盛仁

【使用形態】

- シンポジウム開演、休憩、終了後に、シンポジウム参加者への連絡用にスマートアバターを使用。
- スマートアバターがシンポジウムのプログラムや会場の注意事項を動画で説明。



我々は毎年、「現場からの医療改革推進協議会シンポジウム」(<http://expres.umin.jp/genba/>)を開催している。これは、医療「現場」で生じている課題に対し、「現場」の医療者及び医療に関係する多彩な有識者が議論する稀有な機会であり、2006年11月に第1回を東京大学医科学研究所で開催して以来、2019年度は第14回目の開催となった。シンポジウム開演前、休憩時間、終了時、懇親会前後にスマートアバターを利用した案内(日本語・英語)を放映している。

【効果】

本シンポジウムには幅広い分野の有識者や現場で活躍する医療従事者ら40人以上が登壇し、参加者も200人を上回った。このような規模のシンポジウムを限られたスタッフで運営しなければならないため、スマートアバター導入前は、参加者への案内が十分行き届いていなかった。特に、シンポジウム開演前は受付や演者の誘導にほとんどのスタッフを充てる必要があり、受付後の参加者への連絡事項やサブセッションや懇親会に関する情報共有は十分でなかった。

また、海外からの参加者にも対応する必要性が生じた。

このような課題を解決するため、スマートアバターを利用して情報共有する動画を作成した。動画は5パターン準備し放映した。このようなきめ細かいスマートアバター動画の活用により、円滑に参加者へ情報共有することが可能となり、この結果、参加者からの問い合わせの減少、サブセッションや懇親会への参加者の増加に繋がった。さらに、スマートアバターが英語発話機能も有していることは海外からの参加者への連絡に有用であった。今後も継続してスマートアバター動画を活用することを検討している。

[Topにもどる](#)

2019年11月13日

スマートアバターの使用報告書
-医療現場での活用-

日本歯周病学会認定医
いがらし歯科医院グループ
五十嵐 尚美

【使用製品】 番組作成ツール PCアプリ版

- 医療現場で理解を深める_短時間で番組作成、伝えたいことを要約して話せる！
- 医師自ら簡単迅速に作成
- 繰り返し何度でも修正可能

(1) 診療で

一日の診療において何度も同じことを多数の人に重複して話さなければならないことは医療人にとって大きなストレスである。

このような重複する情報は事前にスマートアバターに任せることで伝え忘れや部分的な言い忘れなどの問題を解決し、重要な情報をまずはスマートアバターで流し、その後復唱する形で患者に理解を求めると、患者は複数回情報の説明を聞くことで、理解を深め質問のしやすい環境を作る事が出来る。

(2) 講演で

講演を行う際に臨床のスライドを流す機会が多い医療現場において、スマートアバターでの説明は要約しやすく、演者のみが話すよりメリハリが出来て聞きやすい?講演が飽きない。演者にとっても時短と重要な事項の伝え忘れや言い間違いなどを避けることが出来る。

(3) 医療現場で

医療現場での臨床やスタッフ教育、講演と様々な場面でスマートアバターを活用することで、短時間で正確な情報を相手に深く理解し伝えることが可能となるツールである。

[Topにもどる](#)

2020年8月31日

スマートアバターご利用について取材報告書 -銀行「受付発券機」案内の 伝え方改革での活用-

株式会社りそな銀行

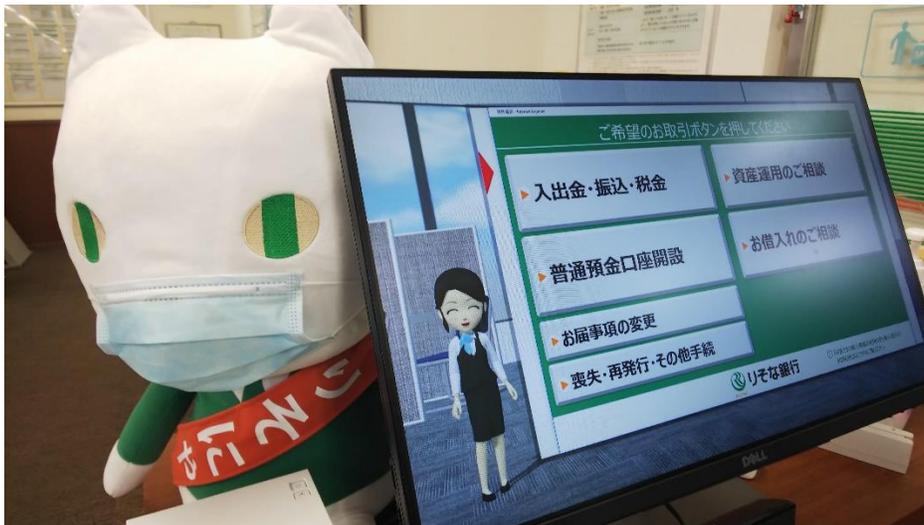
取材：有限会社BOND

馬立 美樹

【使用製品】 番組作成ツール PCアプリ版

◆設置場所

りそな銀行北九州支店 入口カウンター（消毒スプレー設置の隣）



◆活用法

従来、行員が説明していた受付発券機の使い方をスマートアバターが、フルタイムで代行

◆効果・成果

注目度向上・利用頻度（ログ数）向上・利用者の快適な誘導・ウィルス感染リスク低減
・行員の入り口業務の緩和

◆先端小売研究会 評価

旅行会社や携帯電話の受付でも、案内担当が立っていて、用件を聞かれる場面があります。同じように、タッチパネルがありますが、手厚く、その案内担当がパネルタッチまでしてくれます。

コロナ禍では、こういう業務こそ、アバターがやるべきだと思いました。

[Top にもどる](#)

令和2年9月9日

スマートアバター使用報告
～コロナ禍の中で出来ること～

報告者：社会医療法人ペガサス
法人本部 稲垣 尚輝

【経緯】

新型コロナウイルス感染拡大の状況の中での困りごと・・・

- ・施設を案内したいが入館禁止中で施設の中を見学してもらえない
- ・研修をしたいが、集合形式での研修が出来ない
- ・求人をしたいが、外部の説明会が次々と中止になり
アピールの場がなく困っている等

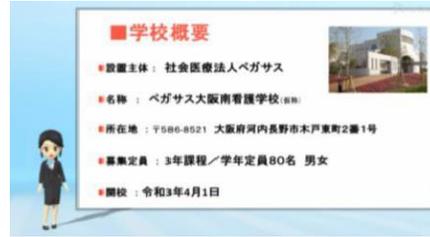
中止・自粛だけではなく、今だからできること。今まで以上にできることを。

【用途】

- ・各施設の紹介動画（見学ができなくとも施設の設備・様子が分かる）
- ・研修の動画（各自が好きな場所・好きな時間で研修動画を視聴）
- ・職種別の求人動画（HP上に掲載し、いつでも誰でも閲覧可能）

【作成実績】

ロイヤルリゾート	大阪南看護学校（施設紹介・学生募集）	ロイヤル
リゾート石津	エクウスプリオル	
通所リハビリ	レスパイトケアセンター	
通所リハビリ和泉	こどもデイセンター	
デイサービス神石	（求人）ペガサス保育園	
デイサービス石津	（求人）ヘルパーセンター	
デイサービス石津2号館	（求人）薬剤部	
デイサービス石津北	（研修）リハビリテーション概要	
デイサービス雅老園	（研修）法人全体研修	
	（研修）ランチョンセミナー	他



【使用効果】

- ・施設に来なくても施設の詳細がわかる（自宅や入院中の方でも視聴可）
- ・写真を多く使った動画なので、施設の設備や様子がわかりやすい
- ・職員も動画を視聴し施設の勉強ができる（利用者の希望に沿った提案が可能）
- ・動画研修なので、好きな時間に繰り返し視聴可能
- ・職種別でそれぞれの部署が作成するので、集合形式の説明会以上に詳しく的確な求人・アピールが可能

等々、スマートアバターでの番組制作が従来のやり方以上の効果もあった

【課題】

- ・病院、クリニックの待合等の音声を出せない場合や耳が不自由な方への使用も想定に入れ、比較的わかりやすく作ってはいるが、字幕をスクロールさせる等 より良く改善できれば更に使用の幅が広げる事が可能



[Top にもどる](#)

2021年5月10日

スマートアバター使用報告

— オンライン研修での活用 —

報告者 TOTO株式会社
人財開発部 人財育成G
谷口 敏郎

【概要】

新型コロナウイルス感染対策による業務や環境の変化に伴い、人財育成研修においてもオンラインによる研修の企画推進を余儀なくされた。

従来の「対面研修」と同じクオリティで「オンライン研修」を実施することを狙いとして、本製品を導入した結果、QCDそれぞれの効果が見られたので一部ここに紹介する。

【背景・目的】

オンライン研修には様々な制約条件があるが、その一つに“集中力維持“を考慮した研修時間や、休憩回数が必要であるため、『集合と同じ講義時間を確保することができない』という問題があった。そこで、従来の集合研修と同等の品質を担保したく、且つオンライン研修を効果的に運営していくために本製品を活用。

【効果】

研修受講者の動画による事前学習により、以下の効果、成果が見られた。

■研修品質担保（Q）

受講者からは「学びやすさや理解度向上につながった」との声が上がり、研修ではグループ討議やワークの時間が確保でき、オンライン研修を円滑に進めることができた。

■研修の自己学習化（C、D）

自己学習内容に関する研修での講師や説明時間が不要（C）となり、受講者は自分のペースでいつでも学習（D）ができ、また受講後にも復習することが可能。

■その他

聴覚障がい者に対して、動画を字幕化することにより、他の受講者と同じ対応で運用できた。

【受講者の声】

- ・ 事前課題のアバターを使った教材がとてもわかりやすく、今回の研修の主旨を事前に理解することにつながった。
- ・ 事前学習は、テキストだけを自分で読むより映像・言葉として耳に入ってくることでより理解が深まりました。
- ・ 事前学習の動画、非常にわかりやすかった。外部委託制作と思っていたので、社内講師が作成された動画だと聞き驚きました。



【今後の期待】

本製品は、様々な機能や演出が可能であることが特徴ではあるが、そのためにデータが重くなり、動画作成、配信に関して様々な作業負荷や制約条件が発生した。今後、軽いフットワークで活用していくためにも、軽くてシンプルな動画ソフトの開発提供を期待する。

[Topにもどる](#)

展示会での活用

シャボン玉販売株式会社
第一営業部
山下 大樹

【使用形態】

- ・販売店様向けのWEB展示会にて使用。
- ・弊社の歴史や商品の特長を説明。



これまではドームにて来場型の展示会であったがコロナ感染拡大のため初めてWEBでのオンライン展示会を行うことになった。

WEB展示会では動画や静止画にて商品特長資料を展開する。

こちらの動画作成に活用した。

【効果】

- ・真新しい新鮮な動画を紹介し目を惹くことができた。
- ・参加者へ円滑な情報提供ができた。
- ・AIアバターに興味を持つ方が多く話題になった。

機能面においても操作がしやすく修正や差し替えも行いやすかったです。

音声にも細かく抑揚がつけられるので自由度の高さと操作性の良さを二つを両立していると感じました。動画作成中もわからないことは質問したらすぐ回答をいただけたので大変助かりました。

以上

[Topにもどる](#)